

日高・川越工場レポート

*高橋 真



キセノン、サンシャインなど促進耐候性試験機の生産ライン
(5号館2009年10月撮影)

川越新工場も本格稼働、来年30周年を迎えます。

当社試験機の生産拠点は、埼玉県日高市と川越市にまたがる日高・川越工場です。昭和55年6月(当時は日高町)に1号館を開設、その後生産拡大に伴い増設を重ね、おかげ様で来年工場開設30周年を迎えます。

これもお客様皆様の多大なご支援、ご援助の賜物と深く感謝申し上げます。

1号館では、最新の設備による鋼板・機械加工が行われ、ステンレスをはじめ高耐蝕性材料を使った試験槽や筐体を製作しています。更に複合サイクル試験機に用いるチタンの曲げ・溶接加工においては、20年以上に渡る技術の蓄積があります。2号館では、塩化ビニル等樹脂を使った腐食促進試験機の試験槽やタンクの製作を行っています。3号館では、塩水噴霧試験機やガス腐食試験機、オゾンウェザーメーター等の腐食促進試験機や過酷環境を再現する耐水・耐塵試験機の製作を行っています。4号館では、促進耐候性試験機の心臓部であるランプを生産しています。電極を真空熱処理し、高純度にするホーミング装置、石英発光管を加工する2軸旋盤等最新の設備によりキセノンランプやメタリングランプの開発、量産を行っています。また、昨年7月には、更なる生産体制強化を目的に、隣接する川越市に5号館を開設、キセノンウェザーメーターやサンシャインウェザーメーターなどの促進耐候性試験機

や摩擦・摩耗試験機、燃焼性試験器などを生産しています。このようにランプの製作から電気回路の配線、鋼板加工や樹脂加工など試験機本体の製作、組立まで一貫生産することで、試験機の性能を究極まで追いつめていきます。昨今の厳しい経済状況の中でも、低炭素社会、循環型社会への転換に向けて、各方面での取り組みは進められており、当社試験機は、寿命予測技術の確立研究や更なる高耐候性製品の開発などに役立てられています。これからも、お客様の多様なニーズにお応えするために、試験機精度の更なる向上を目標に、研究、品質管理に精進し、より良い品質の試験機をよりスピーディに供給できるよう、一層の体制強化を図って参ります。



工場全景



塩水噴霧、複合サイクル試験機など腐食促進試験機の生産ライン
(3号館2009年10月撮影)



ECO エコへの取組み

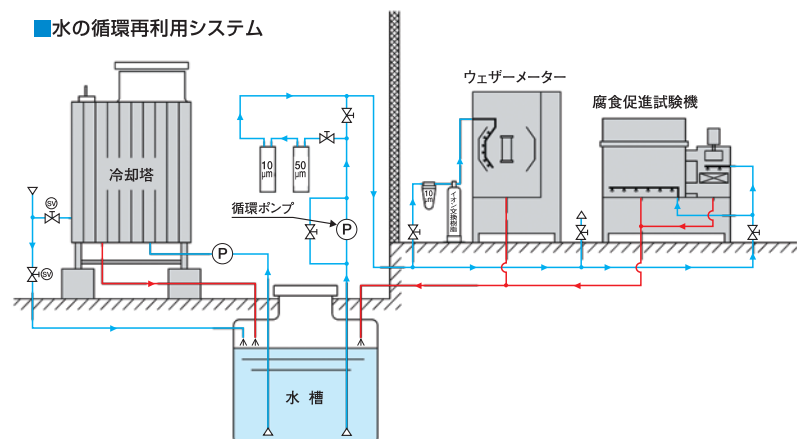
日高・川越工場では、エコに積極的に取り組んでいます。
140名以上の方が働く工場で使用する水や電気の量は、相当なものとなります。そこで水の使用量を最小限に抑えるために、用途を限定して水の再利用を行っています。
工場には下図に示すような装置が2系統あり、試験槽を組立加工後、溶接部にピンホールが無いことをチェックする漏れ検査に使用する水、また、試験機の出荷前データを取る際に使用する試料スプレ水や各種洗浄水などを循環して再利用し、年間約600トンの水を節約しています。



井上 純
日高・川越工場 設計部設計課 課長

【装置概要】

冷却塔：密閉式低騒音型
冷却能力：90kW
循環水量：15.6m³/h
水 槽：FRP製 容量：2m³
循環ポンプ：3相 200V 1.5kW



*日高・川越工場 工場長